

第三十六回帝國議會
衆議院

無線電信法案委員會會議錄(筆記) 第一回

委員會成立

本委員ハ大正四年六月五日議長ノ指名ヲ以テ左ノ通り選定セラレタリ

小林 勝民君	大橋 松二郎君	小森 雄介君
岡崎 久次郎君	中川 幸太郎君	田中 省三君
竹村 欽次郎君	犬塚 勝太郎君	平出 喜三郎君
小林 勝民君	小森 雄介君	竹村 欽次郎君
大橋 松二郎君	田中 省三君	

年長者田中省三君投票管理者トナル

○投票管理者(田中省三君)ハ委員長及理事ノ互選ヲ行フヘキ旨ヲ宣告ス

○大橋松二郎君ハ投票ヲ用井ス小林勝民君ヲ委員長ニ推薦シ理事ハ委員長ノ指名ニ一任スヘシト意見ヲ提出ス

○投票管理者(田中省三君)ハ大橋君ノ意見ニ異議ナキヲ認メ小林勝民君ハ委員長ニ當選シタル旨ヲ宣告ス

○委員長(小林勝民君)ハ平出喜三郎君ヲ理事ニ指名シ引續キ會議ヲ開ク旨ヲ宣告ス

會議

出席政府委員左ノ如シ

逓信省電氣局長 棟居喜九馬君

逓信省通信局長 田中 次郎君

逓信書記官 田邊 治通君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

一無線電信法案

(以下速記)

○政府委員(田中次郎君) 大體私カラ說明申上ゲヤウト思ヒマス、本議場ニ於テ逓信大臣ヨリ本案提出ノ大體ノ理由ニ付テハ、御說明ニナリマシタヤウニ承知シテ居リマスガ、茲ニモウ少シ細目ニ互リマシテ大要ヲ申上ゲテ置キタイと思ヒマス、本案ヲ提出シマシテ急ギマス理由ハ、實ハ英吉利ノ政府デ既ニ無線電信ヲ船舶ニ附ケナケレバナラヌト云フ強制規定ガ出マシタノデ、ツレガ七月一日ヨリ施行スルコト云フコトニ書イテアリマスガ、更ニ必要ガアッタナラバ、勅令デ其實施ヲ延期シ得ルト云フコトニナツテ居ッタデアリマス、其實施延期ノ勅令ガ最近ニ出マシテ、本年ノ末日マデ延期スルコト云フコトニナツテ、結局來年一月一日ヨリ此無線電信ノ強制法ト云フモノガ英吉利ノ屬地、所謂香港トカ、或ハ新嘉坡トカ、印度トカ、ア、云フ方面ニ施行セラレルトニナツタデアリマス、其法律案モ既ニ疾ニ出テ居ッタデアリマスカラ、早晩此日本ノ船舶ニシテ英吉利ノ殖民地地方面ニ往復スル船ニハ、ドウシテモ私無線電信ヲ設備スルコトヲ許サナケレバ、英吉利ノ領海ヲ航海スルコトガ出來ヌヤウナ形ニナツテ來タデアリマス、政府ガ如何ナル船舶ニモ全部無線電信ヲ設置スルト云フコトハ、殆ド不可能ナコトデアリマスガ、一面ニサウ云

フ裝置ガ無ケレバ船舶ノ出入ヲ許サヌト云フ關係カラ、ドウシテモ私無線電信ヲ設ケナケレバナラヌト云フ必要ヲ認メタノデ、此案ヲ此特別議會ニ提出致シマシタノハ、唯今申上ゲタ七月一日ヨリ施行スルコト云フ規定ガアッタ結果カラ、愈々何時マデ延期セラルルカト云フコトガ分ラナイヤウナ關係デ、一層急イデ居ルヤウナコトデアリマス、今日ノ所ハ來年一月一日ヨリ施行スルコト云フコトニナツタモノデスカラ、ドウシテモ早ク法律ノ通過ヲ必要トスル次第ニナツタ譯デアリマス、今日迄ノ無線電信ノ取扱振ハ、總テ政府ガ設ケテ居ッタデアリマスガ、如何ナル船舶ト雖モ陸上局ト雖モ總テ政府ノ設ケルモノデナケレバ、民間デハ一切許サヌ、是ハ今日存在シテ居ル電信法ノ規定並ニツレニ伴ッテ逓信省令デ三十二年ニ出シタモノデハ、當然民間ノ私設ヲ許サナイト云フコトニナツテ居ルデアリマス、併シ今日ノ時勢ハ三十二年ヨリモ大變無線電信ノ必要ヲ感ジテ來ルヤウニナリマシタシ、又船舶モ數ガ非常ニ殖ヘルシ、航海區域モ非常ニ廣クナリマシタシ、ツレニ外國ニ於テ唯今御話シタヤウナ無線電信ノ強制法ヲ施行スルヤウニナツタ關係カラ、ドウシテモ私ニ設備スル無線電信ヲ許サザルヲ得ナイヤウナ時勢ニ立到ッタデアリマス、是ガ本案ノ骨子トシテ規定シタ次第デアリマシテ、第二條ニ無線電信ノ私設ヲ許ス場合ヲ設ケマシタ、是ハ大體國ガ專掌スルノガ原則デアリマスケレドモ、或程度迄ハ民間ノ施設ヲ許サナケレバ非常ナ不便デアル、又ツレヲ許シテ公衆通信取扱ヲシテ、甚シキ支障ノナイ限リハ是ハ許スノガ穩當デアルト考ヘタ、其例ハ丁度今日存在シテ居ル電信法ニ依テ、國家ガ專掌ノ傍ラ電信ノ私設ヲ認メタト同ジ考デ之ヲ認メタデアリマス、併シ無線電信ハ有線電信ト大ニ趣ヲ異ニシテ居ル關係カラ、大分許シマス範圍ハ無線電信ハ違ッテ居リマスガ、立法ノ趣旨ハ大體同一デアリマス、ツレカラ次ニ外國ノ船舶ニシテ無線電信ヲ附ケタノガ大分日本ノ領水内ニ入ッテ來ルデアリマス、今日往復シテ居ルモノデモ、二十艘近イ船舶ガ日本ノ領水内ニ入ッテ來ル、ツレデ其外國ノ船舶ニ對スル無線電信ノ取扱ト云フモノガ、從來十分ニ規定上判明シテ居ナイ、ソコデ本法ニ於テハ外國ノ船舶ニ對シテ、日本ノ領水内ニ於テハ外國ノ電信局ト云フモノヲ帝國ノ領土内ニ認メルト云フコトニシタ、併ナガラ船舶ノ遭難通信、氣象通信、報時通信、一面ニハ公衆通信ヲ日本ノ無線電信官署ニ受ケル、或ハ所謂無線電信官署トノ間ニ往復スル通信ハ、是ハ或程度マデ許サナケレバナラヌト云フコトデ、外國船舶ニモ相當ノ限度ヲ設ケテ通信ノ一部分ヲ許ス、併シ原則トシテハ日本ノ領水内ニ於テハ取扱ヲ許サナイ、ツレハ第五條ニ規定シテアリマス、ツレカラ無線電信ノ私設ヲ許シマシテモ、政府ハ公衆通信ノ如キ、或ハ軍事通信ノ如キ、必要ト認ムル場合ハツレ等ノ私設ノ無線電信電話ト云フモノヲ、公衆通信、或ハ軍事通信ニ使フコトガアルト云フコトヲ規定シタデアリマス、是ハ有線電信ニ於テモ同一ノ趣旨ガ出來テ居リマス、恰モ鐵道沿線ニ鐵道電信ヲ設ケテアル、ツレヲ停車場デ公衆通信ニ使フヤウナ場合アルト同一ノ精神デアリマス、ツレカラ軍事上又ハ公安ノ爲メ、戰時事變等ノ際ニ必要アル時分ニ施設ノ無線電信、其取扱ヲ制限スル、或ハ設備ノ一部分ヲ撤廢スルトカ、或ハ全部撤廢スルヤウナコトデアリマス、

是モ有線電信同一ノ趣旨ヲ規定シテ居リマス、ソレニ依テ七條八條ハサウ云フ精神デ規定シテ居リマス、九條十條ニ至リマシテハ無線電信電話ノ制限ニ關スル事項、竝ニ之ニ反シタル場合ニハ其許可ヲ取消ストカ、或ハ機械ヲ政府ノ當該吏員ガ自ラ進シテ撤去ストカ、或ハ封印ヲ施サウナ規定ヲ設ケテ、要スルニハ取締リノ必要上相當ノ行政處分ヲ行ハル事ヲ茲ニ書キマシタ、十一條十二條ニハ遭難通信ノ取扱振リヲ書キマシタ、此無線電信ハ御承知ノ通り主ニ海上ニ取扱ハレルモノデ、海上多ク船舶ニ取付ケルモノデアリマス、是ハ御聽及ビノヤウニ、歐羅巴亞米利加方面デハ、無線電信ノ働キデ海上ノ船舶遭難ニ非常ナ人命ノ救助、其他ノ遭難ニモ應急處置トシテ非常ナル利便ヲ得タ實例ガ多キアリマス、其關係カラヤハリ此遭難通信ノ取扱ニ付テハ特ニ取扱ヲヤラナケレバナラヌ義務ヲ規定シテアリマス、從テソレニ違背スレバ違反處分——刑罰ヲ蒙ル位ニシテ船舶遭難通信ヲ飽迄保護シテ、他ノ通信ハ止メテモ此遭難通信ハ第一ニ取扱フ、又遭難救助ニ關シテハ第一ニ便利ヲ與ヘ、之ニ向テ相當ノ處置ヲ執ラナケレバナラヌ義務ヲ規定シマシタ、次ニ第十三條ハ無線電信ノ施設ヲ認ムルト同時ニ、此設備ハ割ニ分リ惡イデス、設備ヲシテモ柱一本小サナ奴ヲ立テルカ、或ハ機械ヲ家ノ中ニ据付ケレバ直ク無線電信ヲ送ルコトモ出來ル、或ハ力ノ弱イ奴ガ直チニ送ルコトカ出來ル位ニ極ク見エナイ所ニ裝置シテ、隱蔽シ易イ虞レガアリマス、有線電信ハ是ト反對ニ柱ガ澤山無ケレバナラヌ、針金ヲ長イ間引張ラナケレバ通信ガ出來マセヌカラ、取締上無線電信電話ハ有線電信ヨリモ取締ニ困難ヲ感ジマス、ソレ等ノ關係カラ無線電信ヲ許可ナクシテ施設シタリ、疑ヒノアル所ニハ官吏ヲ派遣シテ相當ニ調査セシメ、或ハ尋問其他適當ノ處分ヲ爲サシメルコトノ規定ヲ設ケマシタ、是ハヤハリ行政上ノ取締ノ一端デアリマシテ、無線電信ノ設備ガ動モスルト緩慢ニ過ギテ、通信ヲ盜シテ聞クヤウナ虞レモアルノデ、或ハ一面ニ空中ノ區間ヲ非常ニ、攪亂スル虞レガアリマス、是等ノ關係カラ取締上行政官ノ權能トシテ、疑ヒアル處ニ立入ッテ吟味シ得ル規定ヲ設ケマシタ、第十四條ニ船舶ヲ——一部分ヲ無線電信ニ利用シナケレバナラヌ場合ガ往々アルト思ヒマス、是モ勿論戰時事變等ノ場合ト思ヒマスガ、其場合ニハ船舶ノ一部トカ、或ハ一室ヲ提供スルヤウナコトニシテ、無線電信ヲ船舶ニ通信シナケレバナラヌ必要ガアルト思ヒマス、是ハ恰モ有線電信ニ於テ鐵道ノ建物等ヲ有線電信ニ用井ルノト、同一ノ精神ニ致シタノデアリマス、大體本條ニ設ケタ主ナル事項ハ、施設ヲ許ス竝ニ施設ニ對スル取締、及ビソレニ對スル検査、ソレト外國船舶ノ取締ヲ書イタノデアリマス、右ニ伴ッテ其違反行爲ニ關スル事柄デ、或ハ許可ヲ得ズシテ施設シタル場合ノ制裁、若クハ一定ノ制限其他ニ關スル命令ニ違反シタル場合ノ制裁、或ハ通信ノ秘密ヲ犯シタル場合ノ制限、又船舶ノ一部ヲ供給シナイトカ、或ハ既ニ施設ノ無線電信電話ヲ軍事公衆ノ通信用ニ供シナイ場合、或ハ遭難通信ノ取扱ヲ延滞スルトカ、或ハ之ヲ妨害スルヤウナ者ニ對スル制裁、主トシテ是等ノ實行ヲ確實ナラシメンガタメニ、或ル制裁ヲ設ケテ規定シタノデアリマス、是等ノ制裁ハ既ニ現在シテ居ル有線電信、或ハ新刑法其他ノ規定等ヲ參酌シマシテ、隨分詳細ニ研究シテ、ソレ等ノ刑罰トシテ見積リ立テタノデアリマス、其他此無線電信ノ妨害ト云フモノハ動モスルト行ハレ易イノデ、空中ノ——御承知ノ通り八方ニ全部影響ヲ受クルモノデアリマスカラ、今日迄モ隨分無線電信ノ取扱ニ付テハ御

互ニ時間ト云ヒ、電力電波ト云フヤウナモノニ付テハ、御互ニ制限シテ海軍省ノ無線電信、遞信省ノ無線電信、或ハ陸軍ノ無線電信トカ云フモノニ付テモ自ラ取扱ヒ時間ヲ極メテ見タイ、或ハ電力ヲ互ニ協定シテ見タイ、空間ノ時間ノ利用ハ大ニ努メテ、圖テ居リマスカラ、無線電信ヲ置クト云フヤウニナリマス、是等ノ取締ニ付テハ一層注意ヲ拂ハナケレバナラヌト思ヒマス、併ナガラ又一面ニハ此協定ヲ爲シ、或ハ保護シテ、空間ノ利用ヲ圖ラウト云フニ拘ハラズ、態々之ヲ妨害スルヤウナモノガアレバ、是ハ嚴重ニ取締ル必要ガアリマスカラ、或ハ通信ノ妨害ヲスルモノハ有線電信ト同ジヤウニ、相當ノ制裁ヲ設ケテ規定シタヤウナ次第デアリマス、大要唯今申上ゲマシタノガ本案ノ骨子トナッテ居リマスガ、尙詳細ナル點ハ御質問ニ應ジテ御答申上ゲル積リデアリマス、又此無線電信ト云フ其モノガ既ニ新ラシイモノデアリマスカラ、學術上ニ付テ御疑問等モアルカモ知レヌト思ヒマスカラ、茲ニ技師ヲ伴ッテ參リマシタカラ、圖ナリ、或ハ其他ノ方法デ御不審ノ點ハ學術上ノ御説明ヲ申上ゲタイト思ヒマス、最後ニモウ一言申上ゲタイト思フノハ、無線電信デアリマス、無線電話ハ數年來遞信省テ專ラ研究シテ、成績優良ニナリマシテ、世界ノ主ナル所デハ特許權ヲモ既ニ得タヤウナ次第デ、今日ハ鳥羽ト伊勢灣ノ入口ノ神島トノ間ノ無線電話デ、船舶ノ通過其他ノ電話ヲヤッテ居リマスガ、此間ノ距離ガ十二哩バカリアリマスガ、ナカノ——良好ナル成績ヲ擧ゲテ居リマス、追々ト無線電話ヲ希望スル人モ出來テ參ラウト思ヒマスカラ、無線電話ニ關スル事モ無線電信ト同一ニ茲ニ包含シテ規定シタ次第デアリマス

○大橋松二郎君 唯今ノ政府委員ノ御説明デ本案ノ趣旨ハ大體分リマシタ、尙私ハ一二質問シタイコトガアリマス、是ハ既ニ貴族院ノ院議ヲ經テ居リマスカラ、或ハ貴族院ノ委員會ガ開カレテ之ヲ知ルコトガ出來タナラバ、私共ノ質問ハ自然無クナッタラウト思ヒマスガ、之ヲ知ルコトガ出來タカッタガ爲ニ伺ヒマス、此法律案ノ因テ起リマシタルハ、今御説明ノ如ク今日マデ無線電信ハ、政府ニ專屬シテ政府テ適應ニ取締ラレタ、所デ是ハ明治二十年デアリマシタカ、此遞信省令ヲ以テ電信法ヲ無線電信ノ取締ノ上ニ準用スルヤウニ聞エテ居ル、其後何カ規則ガアリマシタカ、私ノ持ッテ居ル法令デハワレダケデアリマス、サウスルト此法案ヲ見マシテモ電信法ニ主モニ據ラレテ、而シテ此無線電信ノ組織ノ違ヒマスル上ニ對シテ、自然ノ結果、此電信法ヲ以テ取締ッテ置クト云フコトノ不便カラ、此法案ガ出來タヤウニ見受ケマス、ソコデ第一番重キ疑問ハ、取締上ニ或ハ各條ニ設ケラレタ刑ノ程度、是ガ電信法ト比較シテ見マス、電信法ニナイ事柄ガアル條モアル、是ハ無線電信特殊ノ上カラ起ル事デアリマセウガ、サウデナクシテ電信法ニ規定シタル所ノ事柄ト同様ナ事ニ就ダケテ比較シテ見マシテモ、是ガ刑ノ極度ガ倍ニナッテ居ル、其等モ電信法デハ罰金刑デケテ、體刑ヲ命ジテナイモノニ體刑ヲ附ケラレタモノガアル、斯迄ニ重キ程度ノ刑罰ヲ附セナケレバ、取締上如何ハシク思ハレテ起案サレタモノデアリマセウカ、ソレハ一ノ理論上ダケデナクシテ、實際上政府ノ感ゼラレタ事柄デアルト推測致シテ居リマスガ、若シサウデアラナラバ其例ヲ二三御示シテ願ヒタイ、ソレカラモウ一ハ私設ト云フ事ハ船ノ方ハ別段大ナル關係ハ持ッテ居リマセウガ、何レ船ト致シマシテモ私設ヲスルモノハ、陸地トノ通信通話ヲスルニ違ヒナイ、サウスルト陸地ニ在ル所ノ無線電信ノ機關ヲ置ク所ハ、無論澤山ニ御許シナラレヌ場合ガアルダラウト思ヒマス、

其程度ヲ問フノデナクシテ、全體カラ言ハバ私設ヲ許シ得ラレル限リハ許シナサルヤウナ法案ノ精神カラ見エ、然ルニ此私設ノ事ニ對シテハ非常ニ總テノ權能ヲ政府ニ集中シテ、私設ノ許可ヲ得タモノハ非常ニ不便ニナリ居ルカノ如ク見エ、是ガ將來私設ノ出願者ニ對シテ、大業ニ言ハバ恐怖心ヲ抱カシムルコトガナイカト思フ居リマスガ、直チニ相交渉スル事柄ヲ舉ゲテ見マス、法案第六條ニハ私設ノ無線電信ハ公衆ノ通信ノミヲ命ゼラレテ居ル、其七條ニハ設備ニ變更ヲ命ズルコトガ出來ルヤウニナリ居ル、サウシテ此九條ニハ許可ノ取消又ハ使用ノ停止ヲ命ズルコトガ出來、第十五條ニハ公衆通信ニ供セラレタル時ハ其或ル事柄ダケノモノニ付テ無料ヲ命ジテ居ルコトヲ云フナ事ニナリテ居ルヤウデアリマシテ、サウシテサウ云フ事デ此私設者ハ、皆政府ノ希望若クハ命令ニ服從シナケレバナラヌトスル、是モ已ムヲ得ナイガ、其事柄ヲ實行セラルルニ當テ、官吏ガ出張シテ、アウコヲ斯ウシナケレバナラヌ、是ハ是デハイカヌ、是ハドウ云フコトヲシタノデナイカト云フテ種々尋ラシタ、若クハ其變更等ヲ命ゼラル、ヤウナ事ガアルト、ツレバ背クト直グニ罰金ト云フヤウナコトガアル、スルト政府トシテ便利カ知リマセヌガ、私設經營スル者ノ方ニハ幾ラカノ資本ヲ投資シ人員ヲ置イテ、サウシテ自己ノ事業ノタメ置クモノニ向テ、餘リ政府ガ多大ノ權利ヲ御持チニナルト云フコトハ、私設ノ者ニ餘リ束縛ヲ加ヘルヤウナコトナリハシマセヌカ、サウ云フ場合ニハ唯一ト所ドコカニ船ニ關スル場合ノ時ニ、船舶ニ關シ使用サレタ場合、船舶ニ支拂フスルヤウナ事ガ書イデアリマスガ、船舶ニ關係セヌデモ他ノ場所ニ於テモ、政府ガ其設備ノ變更ヲシタリ、或ハ特殊ノ義務ヲ命ジタ場合ニハ、相當ノ費用ヲ支拂フコトヲ云フヤウナ御意見ヲ持テ居リマスヤ、絶對ニサウ云フコトハ考ヘテ居ラレマセヌカト云フコトヲ一ツ御伺ヒ致シタ

○政府委員(田中次郎君) 唯今ノ御尋ノ電信法ノ刑ト比ベテ見ルト、一方ハ罰金刑ニ止メタルモノヲ、體刑ヲ附ケテ居ルデハナイカ、餘リ權衡ヲ得ナイト云フ御尋デアリマシタガ、是ハ重モ二十六條ニ許可ナクシテ所謂不良ノ施設ヲシタ場合ノ御話ノヤウデアリマスガ、電信法ハ重モニ罰金刑ニナリテ居リマス、是ハ一年以下又ハ千圓以下ノ罰金ニ處スル、斯ウ云フコトニナリテアリマス、刑ニ區別ガアリマスガ大體電信法ハ三十二年ニ出來タノデ、舊刑法ノ時代ニ出來テ居リマシテ、其當時ノ刑法トノ權衡其他ヲ考ヘテ來テ居リマスノデ、所デ今日ハ御承知ノ通り新刑法ガ出來マシテ以來、刑ノ規定ガ大分變リマシテ、其當時三十二年頃カラ見マス割合ニ廣ク刑ノ應用法ガ出來テ居リマシテ、自由裁量ノ範圍ハ廣ク設ケテアルヤウデアリマスガ、近來出來マシタ立法例ハ大概新刑法ノ主旨ニ基イテ出來テ居ル、實ハ電信法ニ關スル刑モ新刑法ニ適合スルヤウナ考ヲ持テ居リマスガ、所デ本法ニ新刑法其他ノ最近立法セラレタモノヲ參照シテ、電信法モ之ニ伴フヤウニ刑ヲ重クシタ次第デアリマス、隨分之二似寄リモノハ例ヘバ鑛業權無クシテ鑛物ヲ採取シタ場合トカ、或ハ漁業法ニ無免許デ「トロール」ヲヤツタリ、或ハ捕鯨漁業トカ種々サウ云ウヤウナ類似ノモノヲ參照シテ、制定シマシタ、ツレカラ有線電信ヨリモ無線電信ハ割合ニ取締上先刻申上ゲタヤウニ困難ヲ感ズルヤウナ次第デアリマシテ、又其害モ有線電信ハ兩間ダケノ間ニ止マルガ、無線電信ハ四方八面カラ來ル通信ヲ受ケ得ル裝置ニナリテ居ル、又四方八面ヨリ出シ得ル機械デアリマスガ、隨分之ヲ不法ニ設備スルト云フコトハ、其害毒ヲ及ボスコトハ夥シイデラウト思ヒマスガ、有線電信ヨリハ

刑ヲ重クスルコトハ至當デアラウト、斯ウ云フヤウナ考デアリマス、ツレカラ私設電信ヲヤツタ場合ニ對シテ、隨分種々ウルサイヤウナ制裁或ハ種々ノ條件ヲ附シテアルノハ、餘リ嚴重過ギハナイカト云フ御懸念デアリマスガ、是ハ御尤モデアリマス、多クハ公衆通信等ヲ取扱ヒマス場合ニハ、ヤハリ取扱ノ手數料ヲ一ヤルノデアリマス、是ハ命令ノ定ムルトコロニ依リ、規定ヲ設ケテ命令ヲ定メ、有線電信等ニ公衆通信ヲ取扱ヘル場合、配達スル電報ナレバ一通四錢、受付ケル場合ナレバ一通四錢、中繼スル場合ハ幾ラ、場合ニ依テハ一通或ハ四錢トカ云フヤウニ電報ノ一通ノ料金例ヘバ二十錢ト云フ内カラ料金ハ向フニヤルヤウニナリテ居リマス、有線電信デヤッテ居ルヤウニ、實際ニ基キ金額ハ必ズシモ同一ト行キマセヌカモ知レマセヌガ、陸上借用船舶借用トモ相當ノ命令ニ依ッテハ積リデアリマス、ツレカラ船舶ニ借用シタ場合ニ、茲ニ明カニ御話シノヤウニ構ハヌ、ツレハ公安上ニ一時ノ變更ヲ申付ケタリ或ハ一部停止ヲ命ゼラレル時ハ、多クハ消極的ノ場合ガ多イノデアリマシテ、戰時事變等ノ場合ニ、例ヘバ軍港ノ近所ニ平生ナラバ許シテ差支ナイノガ戰爭ノ場合ニ一時止メサセナケレバナラヌトカ、或ハ夜ハイケンナイガ、晝間ダケハ宜イトカト云フヤウナ制限ヲスルコトハ、國家ノ公安保護ノ爲メ必要デアラウト考ヘマス、是ハ有線電信ニ於テモサウ云フコトハ認メテ居リマスガ、無線電信ニ就キマシテハ殊ニ船舶乃至陸上等ニ就テ、隨分近來陸海軍其他ニ於テモ發達シテ來タヤウナ關係デ、或ハサウ云フ必要ガアリハセヌカト云フコトカラデアリマス、無論ニハ留保規定デアリマシテ、サウ云フ必要ガナクテ濟ム場合モアリマスガ、事實ノ上カラ適法ノ運用ヲシ適法ノ設備フスル者ニ對シテ、不便ヲ與ヘナイ積リデアリマス、一朝國家ノ公益、公共ノ安全ノ爲メニ或ル制限ノ下ニ服セシムルト云フコトハ已ムヲ得ナイト考ヘマス、實ハサウ云フコトハ無線電信ノミニ限リマセヌガ、大體サウ云フ考デアリマス、ツレカラ第十五條ノ無料取扱ノコトデアリマスガ、是ハ全ク公益ノ爲メニ利益デアルト云フ考カラ、公衆通信ヲ取扱フ局デ、局報トシテ取扱ッテ居ルノハ無論今日デモヤッテ居リマスガ、遭難通信或ハ氣象通信暴風雨ノ豫報トカ、中央ノ氣象ノ判斷ニナル報告等、或ハ時刻ヲ知ラセルトカ云フヤウナコトハ、船舶自身ノ方カラ言ッテモ非常ニ大切ノコトデアル、又陸上間ニ於テモ大切ナル問題デ、公益上又雙方ノ利便ト云フ考カラ是ハ政府デモ無料デアリマスガ、民間モ或ル程度マデ無料トスル、併シツレハ命令ヲ以テツレノ濫用ニナラヌ範圍ハ定メル考デアリマス、大體サウ云フヤウナモノデアリマス

○大橋松二郎君 モウ一ツ伺ヒマスガ、サウ云フ考デアリニナリタスレバ、ツレハ後ハ議論ニナリマスガ、此電信法ノ二十七條ト無線電信法ノ第十六條トハ能ク似テ居ル、然ルニ二十七條ニハ無許可ノ施設者及其使用者又許可ノ取消ノ場合ニハ機械沒收ト云フコトガアルヤウデアリマスガ、此無線電信法ニ載ッデアリマス所デハツレガ無イヤウデアリマスガ、是ハドウ云ウ都合デアリマスガ、ツレカラ今一ツハ第八條ニ「主務大臣ハ公安ノ爲メ必要ト認ムルトキハ云々」ト云フコトガアッテ、外國船舶ニ裝置シタル無線電信、電話ノ使用ノ制限停止又ハ機械ノ除却ト云フコトガ規定シテアリマスガ、是ハ外國船舶ガ港灣ニデモ入ッテ居タ時分ニハ、普通考ヘテモ無論出來ナケレバナラヌ、又出來得ルコト、考ヘマスガ、併シ何處カノ規定ニ依テ見ルト、無線電信通話ノ區域ガ百五十哩ニナリテ居ルヤウデアリマスガ、隨分長イ間ノ距離ニナリテ居リマス、ツレ程ニスル必要ガア

ルカドウカ知レメセガ、其位隔テ居ル船舶ニ向テモ第八條ヲ施行セラル、御考デア
カドウカ、又ドウ云フ方法テ此第八條ヲ施行セラル、ノデアルカ、ソレヲ伺ヒマス

○政府委員(田中次郎君) 電信法第二十七條ニ「電信又ハ電話線及ヒ電信又ハ
電話ノ機器ヲ沒收ス」トアリマスコトハ御説ノ通りデアリマス、ソレヲ本案ニ除イデア
ハ、刑法ノ一般ノ規定ニ基キマシテ所謂犯罪ヲ構成スルヤウナモノハ、自ラ沒收セラル、
規定ガアリマスカラ、其方ニ據ルコトニナルデアリマス、ソレカラ第八條ノ場合ハ主ニ前
條ニ書イデアリマシヤウナ場合ニモ遭難通信、氣象通報ヲ通信官署トナルコトハ許ス
デアリマスガ、場合ニ依テハソレヲ制限ヲ加ヘナケレバナラヌコトガアラウト思ヒマス、例
ハ門司ニ入港シテ神戸ニ行クマデノ間ニ於テハ、其間ニ吳軍港ナドモアリマスカラ、一切
無線電信ヲ使ッテハイケンイト云フコトヲ申付ケル 必要モアラウト思ヒマス、ソレカラ除却
或ハ封印ヲ施スト云フヤウナコトモアリマスガ、是ハ其取締ノ爲ニ門司ナラ門司カラ吏
員ガ乗込シテ行クコト云フ時ニハ、實際ニ其取締ガ付キマスガ、サウデナケレバ其實行ハ出
來マイト思ヒマス、斯ウ云フ例ハ亞米利加ナド、今度ノ戰爭中桑港ナドデハ税關ガ取
締ノ監督權ヲ持テ居ッテ、日本ノ無線電信ニ封印ヲシタ、丁度其時ニハ獨逸ノ最後通
牒ノ回答ガ來ナケレバナラヌト云フヤウナコトデ、隨分出雲艦ト通信シナケレバナラヌヤ
ウナ場合ガアッタニモ拘ラズ、一切通信ヲ制限シ、甚シキハ終ニ封印マデ施シタト云フ例ガ
アル、是ハ中立國デサヘモサウ云フヤウナコトガアル、況ハ戰時事變ノ時ニハ一層サウ云フ
コトヲスル必要ガアラウト思ヒマス、是ハ百五十哩ト云フヤウナコトデハナク、専ラ日本領
水内ノ取締ヲスル規定デアリマス

○小森雄介君 チョット政府委員ニ伺ヒマスガ、此私設許可ノ場合ニ就テハ、第二條
ニ列記主義ヲ採リ、而シテ其以外ニ許可スル場合ハ又特ニ規定シテアリマスガ、若シ此
私設ノ目的ニ反シ私ニ營業デモシタナラバ、直ニ處罰セラレト云フコト、ナッテ居リマス
ガ、政府ハ其犯則ノ場合ヲ如何ニシテ御監督ニナリマスガ、其方法ハ如何ト云フコト、
第二ニハ「ウエーウリシテ」ト「パー」等ノコトニ就テハ、別ニ法文ニ御規定ガナク、總テ
命令ニ讓ルト云フコトニナッテ居リマス、所デ此「ウエーウリシテ」及「パー」ニ就テノ制限
等ハ頗ル重大ナコトデ、之ヲ命令ニ讓ルト云フコトニナレバ、私設シタイト云フ者ノ爲ニ
別々ニ命令ヲ發セラレル都合ニナリマスガ、又ハ一定ノ省令ヲ以テナサル御積リデスカ、ソ
レカラモウ一ツ混線ノ場合、即チ私設ノモノト官設ノモノト混線スル場合ガ隨分アラウト
思ヒマス、又官線ノ使用上ニ於テ十分秘密ヲ保タナクテハナラヌ場合ガアラウト思ヒマス
ガ、ソレヲ場合ニ於テ差支ノ起ルコトハナイカ、ソレニ對スル政府ノ御所見ヲ伺ヒタイト
存シマス

○政府委員(田中次郎君) 唯今ノ御高見ハ洵ニ御尤モノ御尋ト思ヒマス、第二條
ハ大體許シマス範圍ヲ定メテ置キマシテ、之ニ關スル手續等ハ命令ノ定ムル所ニ依ッ
テ許可ヲ受ケルト云フコトデ、命令テ相當ニ規定スル積リデアリマス、ソレカラ取締ニ就
テハドウ云フ考ヲ有ッテ居ルカト云フコトニ就テハ御尋ネノ通り大海ノ中ノ船舶、而モ自
由ニ今日ニ於テ使用サレテ居ル無線電信デアリマシテ、實際犯則者ガアリマシテモ、其
取締ト云フコトハ隨分困難ナル場合ガ多カラウト思ヒマス、隨分此公眾通信ヲ扱フ無
線電信局、或ハ政府ノ設置シタ局ト云フモノノ間ノ通信ハ、相當ニ往復シテ居リマス

カラ、自然サウ云フ船舶カ或ハ附近ノ海岸局等デ、其無線電信ヲ廣ク取扱ッテ居ルカ、
或ハ殊ニ之ヲ防害ニナルコトヲヤッテ居ルコトヲ他ヨリ聞クコトハ往々ニシデアリマスガ、
或ハ能ク通信省アタリノ取扱人ガ、餘リ必要デナイ通信ヲヤッテ居ルヤウナコトヲ海軍デ
聞クト、海軍デ突込シテ報告シテ來マス、又海軍デ餘リ冗長ナ通信ヲヤッテ居
ル、其電波力ヲ必要以外ニ使ッテ居ラヌカト思フノヲ聞クト、之ヲ報告シテ海軍省ニ聞
合スト云フコトハ互ニヤッテ居リマスカラ、今ノ御話ハ隨分困難デアリマスガ、一面相
當ノ往復シテ居ル船舶、或ハ海岸局ニ於テ其情報ヲ得次第、通牒ヲ貰ッテ取締ハ
出來ルト思ヒマス、併ナガラ是ハ絕對ニ取締ガ出來ルト云フコトハ保證スルコトハ困難デ
アリマシテ、成ベクサウ云フ方法ニ注意ヲ拂ッテ取締ノ便ニ供スル積リテ考ヘテ居リマス、
三條ニ關シマシテハ「私設ノ無線電信又ハ無線電信ノ機器其ノ裝置及運用ニ關スル
制限並私設ノ無線電信ノ通信ニ從事スルモノ、資格、命令ノ定ムル所ニ依ル」ト書イ
デアリマス、是ハ唯今御懸案ニナリマシタ事柄ガ隨分アリマス、電力ハドノ位ガ宜イカ、電
波調度ハドノ位ニ制限スルカ、要スルニ御心配ニナルコトハ御互相侵サヌデ、通信ノ目
的ヲ達スルコトハ吾々十分考ヘテ居リマス、私設電信ニ關シマシテモ私設電信規則ト云フ
モノヲ設ケテ、諸方デ公ニシテ居ルヤウニ、無線電信ノコトモ殊ニ三條ニ付ケマシテ詳細
ニ書ク積リデアリマス、大體ノ規則ヲイロ／＼ノ規則ニ付テ命令スルコトガ出來レバ、
成ベク避ケタイ積リデアリマスカラ、餘リイロ／＼ノ命令デアレバ公ニ分ラヌデ、分ラヌタ
メニ私設ニスル人も疑懼ノ念ヲ抱ク虞レガアリマスカラ、出來ルダケ成ベク規則ヲ詳細
ニ書イテ天下ニ公ニシテ遵奉スル大體ノコロヲ示スガ宜イト思ヒマス、是ニマデ附則ノ
規則類ヲ添ヘルマデハ往ッテ居リマセヌ、規則類デ明記シナケレバナラヌ點ガ五六點アリマ
スカラ、大體腹案ハ立テ、居リマスガ、茲ニ申シマシマデハナッテ居リマセヌ

○小森雄介君 先刻七月一日ニ云々ト云フコトデ、此特別議會ノ臨時議會ニ提出
シナケレバナラヌト云フ御理由デガイマシテ、能ク其點ハ分リマシタ、思ヒマス日本ノ無
線電話モ役所デ研究シツ、アル最中ダラウト思ヒマス、ソレカラ又無線電信ノコトデアレ、
又之ニ私設ヲ許シテ有線電信ノヤウナ風ニ、今ノ或ハ二三ノ汽船會社ノ希望ガアルカ
知リマセヌガ、唯其二三ノ希望ノタメニ斯ウ云フ重大ナ罰金刑トカ、或ハ體刑トカ云フ
モノヲ食ハセルヤウナ、コンナ法律ヲ此期間ノ迫ッタ二三日ノ間ニ御出シナラヌデハ緊
ナ必要ガアッタカドウカ、五六箇月待ツタラ通常議會ガ開ケルノデナイカ、殊ニ戰時デハ
ルシ、無線電信ノコトモイロ／＼御研究ヲ御積ミニナルコトニ於テ、無線電話モ其間ニ
至ッテ研究ガ積ンデ來ルト思ヒマス、ソレダケノ理由デ急イデ出サナケレバナラヌ必要ニ
迫リマシタカドウカ

○政府委員(田中次郎君) 唯今ノ御尋ニ付テ御答シマスガ、外國ノ關係モ勿論唯
今申シマシヤウニアリマスガ、此私設ヲ許シテ貰フナラバ大變都合ガ宜シイト云フコトハ、
單ニ一二船舶業者バカリデアリマセヌ、市町村殊ニ島アタリデ、海底電信ヲヤレバ非常ニ
費用ガ掛ルシ、他ニ通信ノ途ハナイ、殊ニ海上荒レタ場合ニ必要ノナイニ拘ラズ、非常ニ
必要ダト云フ考カラ、無線電信無線電話ヲヤリタイト云フ請願ガ出テ居ルノガ多タ
リマス、夫等請願ヲ酌シテ相當ニヤリタイト云フコト、年來考ヘテ居ッタノデ英吉利ノ強
制法ノ關係バカリデアリマセヌ、無線電信業務ノ技術研究ハ、今日隨分發達シテ居ッテ、

寧ろ無線電信ノ私設ニ關スル規定ノ無イハ日本ヲケト云フテ宜イ位デ、外國デハチャント規定ガ各國トモ出來テ居リマス、サウシテ十分保護モ與ヘルト共ニ、又取締上ノ制裁モ附シテ居リマス、本邦ニ於キマシテモ相當ノ程度マデ、公衆電信ヲ甚シク害セヌ程度ニ、船舶業者アレバ學術研究デモ其他島ノ人デアラウト、其他ノ漁業者モ隨分利用スルハ將來殖エルバカリデナク、現ニサウ云フ必要ヲ感シテ居ルノガ澤山アリマス、無線電話ニ付キマシテハ、唯今申シマシタ鳥羽、神島等ニ實際ヤツテ居ッテ、其成績ハ優良ナバカリデナク、遞信省過去六七年間非常ニ實驗ヲ積ンダ經驗ニ依リマシテモ、是ダケノコトヲ實地ニ應用シテ、鳥羽、神島ニヤツタ實際カラ見テ、是ハ決シテ公衆電信ヲ利用シテモ更ニ遺憾ノナイコトヲ確信シテ居リマス、又彼ノ附近デ島等ノ間ニヤリタイト云フ希望モ出デ居リマス、其他サウ云フ希望ガ出デ居ルノガアリマス、是ハ斯ウ云フ規定ガ出來マシタカラ、今日ノ決シテ技術進步研究ニ阻碍スル虞レナク、私設ガ出來ルダケ出來テ、更ニ通信ヲ研究シ、學術ノ研究者モ學術ヲ研究ヲシテ往クト云フ風ニ、規定ガ出來タラ阻碍ハナイ積リデ、期間ノ短イノ出シタノハドウカト云フ御尋デアリマスガ、吾々ノ立場トシテハ是ハ古クカラ研究シ、諸外國ハ總テノ國ガ規定ガ出來テ居ルヤウナ關係デ、前議會カラ出シタイト思ッテ居ッタノデ、今日皆サシノ協賛ヲ仰グ次第デアリマス、今日ノ規定ノ上カラ云ヘバ、ドウシテモ此法律ノ通過ヲ必要トスルコトハ、英吉利ノ關係カラ申シマシテモ必要デアリマス、又今日實際ノ内地ニ於ケル船舶業者漁業者、其他ノ汽船等ニ於テ必要ヲ感ズルコトハ縷々申シマシタ次第デゴザイマスカラ、何卒急ニ御協賛アラントヲ希望シテ置キマス

○田中省三君 私ハ英國ニ於テ無線電信ノ私設ニ伴フトコロノ裝置ヲ要スル政府ノ御見込ニ付テチヨット伺ヒタイノデスガ、此參考表ニ依リマスレバ御見込ガ、私設ヲ要スベキ見込ガ日本郵船ニ於テ二十三、大阪商船ニ於テ六、南洋郵船ニ於テ四、三井物産ガ三、社外船デ五、斯ウ云フ順序ニナツテ居リマスガ、其他ノ船舶ニ於テハ必要ナイト御認メデアリマセウカ、又其他ノ船舶ニ對シテモ追々御許シニナルト云フ御見込デ、此處ニ掲ゲラレタ譯デゴザイマセウカ

○政府委員(田中次郎君) 茲ニ參考トシテ差上ケマシタ八枚目ニ書イデアリマスノハ、大體ノ様子ヲ内々見テ來タダケノ數デアリマシテ、是以外ニマダ附ケタイト云フ人モ随分アルカモ知ラヌト思ヒマス、此無線電信ヲ附ケナイデモ濟ムヤウナ乗込人ノ數ヲ減シテ行カウト云フ船舶モアルノデアリマス、ソレデ願出セバ私ノ方デハ許ス方針デアリマス

○田中省三君 是等ハ「メー」ル「船」バカリデナク、貨物船ニ對シテモサウ云フ申出ガアリマセウト思フ、彼ノ英領香港、新嘉坡等ニハ寧ろ「メー」ル「船」ヨリハ貨物船ノ方が多ク往復シテ居ルヤウニ思ヒマスガ、ソレ等ノ貨物船ニ於テ施設ヲ必要ト認メルモノデモ、申出ガナイ場合ハ其儘放任セラル、ノデアリマスカ

○政府委員(田中次郎君) 御話ノヤウニ「メー」ル「船」バカリデナク、貨物船ニ於テモ大分此希望ヲ申出ルモノト信ジテ居リマス、唯是非附ケナケレバナラヌト云フノデハナク、英吉利アタリデハ五十人以上——客ヲ加ヘテ五十人以上ノ乗込人ガアレバ、必ラス附ケナケレバナラヌト云フノデアリマスガ、二十人デモ附ケタイト云フナラバ私ノ方デハ許ス積リデアリマス

○委員長(小林勝民君) 今日ハ是ダケニシテ置キマス散會シマス
午後零時五十二分散會

大正四年六月十一日印刷

大正四年六月十二日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局